

科目名	WORD実習				
担当教員	若井 彩香		実務授業の有無	×	
対象学科	総合ビジネス科/データマーケティング科/ビジネスライセン斯科	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	98時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1.Wordを使った文書作成を行う。 2.授業の初めに必ず速度計測を行いキータイピングに慣れる。 3.Word3級の学習を通じパソコン操作に慣れ、MOS取得を目指す。				
学習目標 (到達目標)	1.MicrosoftWordの操作技能を修得する 2.ビジネス文書を作成できるようになる。 3.サートファイ主催Word検定3級、MOSを取得する。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	ウイネット Word2016クイックマスター基本 サートファイ Word文書処理技能認定試験 3級問題集(2016対応) MOSWord2016対策テキスト&問題集				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	Wordの進め方についての説明		パソコンの基本操作や授業の進め方の説明。		
2	クイックマスターChapter1 Wordの基本		基本的なWordの操作方法、ボタンの説明。P2～P28		
3～4	クイックマスターChapter2 文字の入力と編集の基本操作		文字の入力、変換、文字列のコピーや貼り付けについて。 P22～P49		
4～6	クイックマスターChapter3 文書の編集		ページの書式設定を行う。P54～P80		
7～8	クイックマスターChapter4 文字の印刷		ページの印刷と設定方法。P86～96		
9～12	クイックマスターChapter5 文書の作成		例題としてのビジネス文書を作成する。P100～128		
12～15	クイックマスターChapter6 表を使った文書の作成		表の作成方法を学ぶ。P134～P156		
16～19	クイックマスターChapter7 図形や画像を使った文書の作成		図形の作成、挿入、編集を行う。P168～200		
20～21	クイックマスター 総合学習問題		クイックマスターのまとめとして練習問題を解く。P212～217		
22～31	問題集 練習問題1～3		Word3級問題集の練習問題1～3を行う。P2～P16		
32～36	問題集 模擬問題1～7		Word3級問題集の模擬問題を行う。P26～P74		
37	問題集 サンプル問題		Word3級問題集素材内にあるサンプル問題を行う。		
38	MOS 試験対策、範囲についての説明		MOS試験についての説明		
39～47	MOS 文書の作成と管理		文書の作成、書式設定を学ぶ。P26～P95		
48～53	MOS 文字、段落、セクションの書式設定		文書内の細かな書式設定を学ぶ。P97～P135		
54～58	MOS 表やリストの作成		表やリストの作成方法を学ぶ。P137～P175		
59～63	MOS 参考資料の作成と管理		参考資料の作成や管理を学ぶ。P177～P205		
64～68	MOS グラフィック要素の挿入と書式設定		グラフィック要素の挿入や書式設定を学ぶ。P207～P245		
69～85	MOS 第1回～第5回模擬試験、解説		テキスト付属CD-ROM内の模擬問題で試験対策を行う。		
86～98	MOS まとめ		試験対策としてこれまでの内容を反復し模擬試験では間違えたところを再度復習する。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
検定結果70%、課題15%、学習意欲15%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(41点以上)・D(40点以下)とする。			まずサートファイ主催のWord検定3級の学習と試験を行いWordそのものの基本動作に慣れ、その後MOSの対策を行いより高度な知識と技術の取得を目指す。		
実務経験教員の経歴		－			

②

長岡公務員・情報ビジネス専門学校 シラバス

科目名		EXCEL実習									
担当教員		西海 智久		実務授業の有無		×					
対象学科		総合ビジネス科/データマーケティング科/ビジネスライセン科		対象学年		1		開講時期		前期・後期	
必修・選択		必修		単位数				時間数		98時間	
授業概要、目的、 授業の進め方		1.Excelを使った文書作成を行う。 2.Word3級の学習を通じパソコン操作に慣れ、MOS取得を目指す。									
学習目標 (到達目標)		1.MicrosoftExcelの操作技能を修得する2.テキストの例題、演習問題を通して、ワークシートの作成、グラフ、データベース機能を学び活用能力を習得する。3.サーティファイ主催W o r d 検定3級、MOSを取得する。									
テキスト・教材・参考図書・その他資料		ウイネット Excel2016クイックマスター基本 サーティファイ Excel表計算処理技能認定試験 3級問題集(2016対応) MOSExcel2016対策テキスト&問題集									
回数	授業項目、内容					学習方法・準備学習・備考					
1	Excelの進め方についての説明					パソコンの基本操作や授業の進め方の説明。					
2～3	クイックマスターChapter1 Excelの基本					基本的なExcelの操作方法、ボタンの説明。P2～P22					
4～6	クイックマスターChapter2 データの編集					新規ブックの作成やデータの入力などを理解する。P24～P56					
7～10	クイックマスターChapter3 表の編集					罫線の設定やセルの書式設定を理解する。P58～P84					
11～12	クイックマスターChapter4 ブックの印刷					ページの印刷と設定方法を理解する。P86～102					
13～16	クイックマスターChapter5 グラフと図形の作成					グラフと図形を作成する。P104～140					
17～18	クイックマスターChapter6 ブックの利用と管理					ワークシートの管理とウィンドウの操作を学ぶ。P142～P155					
19～24	クイックマスターChapter7 関数					統計関数、数学、三角関数、論理関数、日付関数を学ぶ。P158～190					
25～26	クイックマスターChapter8 データベース機能					リストの管理や並べ替えを学ぶ。P192～P212					
27～29	クイックマスター 総合学習問題					クイックマスターのまとめとして練習問題を解く。P214～217					
30～35	問題集 練習問題1～3					Excel3級問題集の練習問題1～3を行う。P2～P19					
36～46	問題集 模擬問題1～7					Excel3級問題集の模擬問題を行う。P22～P63					
47～48	問題集 サンプル問題					Excel3級問題集素材CD-ROM内にあるサンプル問題を行う。					
49	MOS 試験対策、範囲についての説明					MOS試験についての説明					
50～55	MOS ワークシートやブックの作成と管理					ワークシートの作成と編集、ウィンドウとブックの操作を行う。P26～P95					
56～61	MOS セルやセル範囲のデータの管理					セルやセル範囲のデータの罫入、書式設定、データの整理を学ぶ。P96～P149					
62～67	MOS テーブルの作成					テーブルの作成、管理、スタイルの適用、レコードの抽出、並べ替えを学ぶ。P150～P171					
68～73	MOS 数式や関数を利用した演算の実行					関数を使用したデータの集計、数式の作成、セル参照、条件付きの計算の実行、書式設定を行う。P172～P199					
74～79	MOS グラフやオブジェクトの作成					グラフの作成、書式設定、オブジェクトの挿入、書式設定を行う。P200～P249					
80～88	MOS 第1回～第5回模擬試験					テキスト付属CD-ROM内の模擬問題で試験対策を行う。					
89～98	MOS まとめ					試験対策としてこれまでの内容を反復し模擬試験では間違えたところを再度復習する。					
評価方法・成績評価基準							履修上の注意				
検定結果70%、課題15%、学習意欲15%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(41点以上)・D(40点以下)とする。							まずサーティファイ主催のExcel検定3級の学習と試験を行いExcelそのものの基本動作に慣れ、その後MOSの対策を行いより高度な知識と技術の取得を目指す。				
実務経験教員の経歴		－									

## ② 長岡公務員・情報ビジネス専門学校 シラバス

科目名		商業簿記 3 級					
担当教員		永田 章		実務授業の有無		無	
対象学科		簿記3級・簿記3級上級・簿記3級下級・簿記3級中級・簿記3級下級上級		対象学年		1	
必修・選択		必修		単位数		1	
				時間数		144時間	
授業概要、目的、授業の進め方		基本的な商業簿記を習得し小規模企業における企業活動や会計実務を踏まえた経理関連書類の処理を学ぶ。日商簿記検定 3 級または全経簿記3級商業簿記合格レベルの知識と計算力を身に付けることを目的とする。各分野についてテキストに沿って説明を行うとともに、例題やトレーニングの練習問題を利用して問題演習と解説を実施する。また、補助プリントを配付して計算能力の向上を図る。					
学習目標（到達目標）		日商簿記検定 3 級および全経簿記3級商業簿記検定の取得が可能となるような知識と計算力を身に付ける。					
テキスト・教材・参考図書・その他資料		日商簿記3級合格テキスト（T A C） 日商簿記3級合格トレーニング（TAC）					
時間数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考			
1～3	簿記の基礎（基礎的事項、損益計算書、貸借対照表、記帳のルール）、日常の手続き（仕訳、勘定記入の方法）			テキストに沿って説明、トレーニングによる問題演習と解説。			
4～6	日常の手続き（試算表の作成、純損益の計算）			テキストに沿って説明、トレーニングによる問題演習と解説。			
7～9	商品売買（分記法、三分法、掛け取引）			確認テスト1回。テキストに沿って説明、トレーニングによる問題演習と解説。			
10～12	商品売買（手付金、内金、商品券）			テキストに沿って説明、トレーニングによる問題演習と解説。			
13～15	商品売買Ⅱ（返品、譲渡り、立替金、売掛金・買掛金元帳）			確認テスト2回。テキストに沿って説明、トレーニングによる問題演習と解説。			
16～18	商品売買Ⅲ（商品有高帳（移動平均法、先入先出法）			確認テスト3回。テキストに沿って説明、トレーニングによる問題演習と解説。			
19～21	現金・預金（現金、当座預金、当座振越、普通預金、定期預金）			確認テスト4回。テキストに沿って説明、トレーニングによる問題演習と解説。			
22～24	小口現金（インプレスト・システム、小口現金出納帳）			確認テスト5回。テキストに沿って説明、トレーニングによる問題演習と解説。			
25～27	クレジット売掛金、手形取引（約束手形、手形貸付・借入金）			確認テスト6回。テキストに沿って説明、トレーニングによる問題演習と解説。			
28～30	補助簿（現金出納帳、仕入帳、売上帳、手形記入帳）			確認テスト7回。テキストに沿って説明、トレーニングによる問題演習と解説。			
31～33	電子記録債権・債務、貸付金・借入金			テキストに沿って説明、トレーニングによる問題演習と解説。			
34～36	有形固定資産（購入、売却、償価、修繕・改良）			確認テスト8回。テキストに沿って説明、トレーニングによる問題演習と解説。			
37～39	仮払金・仮受金、給与（預り金、立替金）、訂正仕訳			確認テスト9回。テキストに沿って説明、トレーニングによる問題演習と解説。			
40～42	試算表（合計残高試算表、明細表、作成手順と問題演習）			テキストに沿って説明、トレーニングによる問題演習と解説。			
43～45	試算表（合計試算表、作成手順と問題演習）			テキストに沿って説明、トレーニングによる問題演習と解説。			
46～48	現金過不足（期中取引、決算整理）			確認テスト11回。テキストに沿って説明、トレーニングによる問題演習と解説。			
49～51	租税公課、貯蔵品、当座振越			テキストに沿って説明、トレーニングによる問題演習と解説。			
52～54	決算整理（売上原価）			確認テスト12回。テキストに沿って説明、トレーニングによる問題演習と解説。			
55～57	決算整理（貸倒、貸倒の見積りも、引当金）			テキストに沿って説明、トレーニングによる問題演習と解説。			
58～60	決算整理（減価償却、減価償却している固定資産の売却）			確認テスト13回。テキストに沿って説明、トレーニングによる問題演習と解説。			
61～63	決算整理（経過勘定項目）			確認テスト14回。テキストに沿って説明、トレーニングによる問題演習と解説。			
64～66	決算整理残高試算表（作成手順と問題演習）			確認テスト15回。テキストに沿って説明、トレーニングによる問題演習と解説。			
67～69	精算表（作成手順と問題演習）			テキストに沿って説明、トレーニングによる問題演習と解説。			
70～72	帳簿の繰切（英米式決算）			確認テスト16回。テキストに沿って説明、トレーニングによる問題演習と解説。			
73～75	損益計算書・貸借対照表（作成手順と問題演習）			テキストに沿って説明、トレーニングによる問題演習と解説。			
76～78	損益計算書・貸借対照表（問題演習）			テキストに沿って説明、トレーニングによる問題演習と解説。			
79～81	株式の発行（資本について、設立、増費）、剰余金の配当と処分			確認テスト17回。テキストに沿って説明、トレーニングによる問題演習と解説。			
82～84	税金（法人税等、消費税）			確認テスト18回。テキストに沿って説明、トレーニングによる問題演習と解説。			
85～87	証券による処理（請求書、出張報告書、当座勘定照合表）			テキストに沿って説明、トレーニングによる問題演習と解説。			
88～90	伝票（伝票制、一部現金取引）			テキストに沿って説明、トレーニングによる問題演習と解説。			
91～93	伝票（総勘定元帳への転記、掛元帳への転記）			確認テスト19回。テキストに沿って説明、トレーニングによる問題演習と解説。			
94～96	答案練習（日商簿記3級過去問題集）、補助プリント			過去問題等をテスト形式で実施して解説。その他の問題演習を含む。			
97～99	答案練習（日商簿記3級過去問題集）、補助プリント			過去問題等をテスト形式で実施して解説。その他の問題演習を含む。			
100～102	答案練習（日商簿記3級過去問題集）、補助プリント			過去問題等をテスト形式で実施して解説。その他の問題演習を含む。			
103～105	答案練習（日商簿記3級過去問題集）、補助プリント			過去問題等をテスト形式で実施して解説。その他の問題演習を含む。			
106～108	答案練習（日商簿記3級過去問題集）、補助プリント			過去問題等をテスト形式で実施して解説。その他の問題演習を含む。			
109～111	答案練習（日商簿記3級過去問題集）、補助プリント			過去問題等をテスト形式で実施して解説。その他の問題演習を含む。			
112～114	答案練習（日商簿記3級過去問題集）、補助プリント			過去問題等をテスト形式で実施して解説。その他の問題演習を含む。			
115～117	全経簿記3級商業簿記特有の観点について			補助プリントを使用して解説			
118～120	全経簿記3級商業簿記特有の観点について			補助プリントを使用して解説			
121～123	答案練習（全経簿記3級過去問題集）、補助プリント			過去問題等をテスト形式で実施して解説。その他の問題演習を含む。			
124～126	答案練習（全経簿記3級過去問題集）、補助プリント			過去問題等をテスト形式で実施して解説。その他の問題演習を含む。			
127～129	答案練習（全経簿記3級過去問題集）、補助プリント			過去問題等をテスト形式で実施して解説。その他の問題演習を含む。			
130～132	答案練習（全経簿記3級過去問題集）、補助プリント			過去問題等をテスト形式で実施して解説。その他の問題演習を含む。			
133～135	答案練習（全経簿記3級過去問題集）、補助プリント			過去問題等をテスト形式で実施して解説。その他の問題演習を含む。			
136～138	答案練習（全経簿記3級過去問題集）、補助プリント			過去問題等をテスト形式で実施して解説。その他の問題演習を含む。			
139～141	答案練習（全経簿記3級過去問題集）、補助プリント			過去問題等をテスト形式で実施して解説。その他の問題演習を含む。			
142～143	試験対策・解説			試験に向け出題範囲について振り返りと対策を行う。			
評価方法・成績評価基準				履修上の注意			
確認テスト25%、答案練習25%、検定結果20%、授業態度・学習意欲10%、課題提出10%、出席状況10%				計算力向上が重要なため、指定された問題は必ず解くこと。			
成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。				課題とされた問題は遅滞なく確実に提出すること。			
実務経験教員の経歴				－			

長岡公務員・情報ビジネス専門学校 シラバス					
科目名	商業簿記2級				
担当教員	永田 章		実務授業の有無	無	
対象学科	経済ビジネス科/データ・マーケティング科/情報ビジネス科/会計科		対象学年	1	開講時期
必修・選択	必修	単位数	－	時間数	前・後期 141時間
授業概要、目的、 授業の進め方	高度な商業簿記を修得し、財務諸表の数字から経営内容を把握できるなど、企業活動や会計実務を踏まえ適切な処理や分析を行うことができるレベルを目指す。具体的には、日商簿記検定2級合格レベルの商業簿記の知識と計算力を身に付けることを目的とする。 各分野についてテキストに沿って説明を行うとともに、例題やトレーニングの練習問題を利用して問題演習と解説を実施する。また、補助プリントを配付して計算能力の向上を図る。				
学習目標 (到達目標)	日商簿記検定2級および全経簿記2級の取得が可能となるような知識と計算力を身に付ける。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	日商簿記2級合格テキスト（TAC） 日商簿記2級合格トレーニング（TAC） 簿記能力検定試験 最新過去問題集2級（全経経理教育協会）				
時間数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1～3	財務諸表（株式・表示区分）、商品売買（三分法、売上原価対立法、分記法）		テキストに沿って説明。トレーニングによる問題演習と解説。		
4～6	商品売買（割引、期末評価、購入率・原価率）		テキストに沿って説明。トレーニングによる問題演習と解説。		
7～9	現金及び預金（現金過不足、銀行勘定調整表）		テキストに沿って説明。トレーニングによる問題演習と解説。		
10～12	債権・債務（クレジット売掛金、手形の裏書、手形の割引）		確認テスト1回。テキストに沿って説明。トレーニングによる問題演習と解説。		
13～15	債権・債務（手形の更改、営業外手形、電子記録債権・債務、債務保証）		テキストに沿って説明。トレーニングによる問題演習と解説。		
16～18	有価証券（分類、株式の購入・売却、債券の購入・売却・利息）		テキストに沿って説明。トレーニングによる問題演習と解説。		
19～21	有価証券（期末評価、切放法・洗替法、償却原価法）		テキストに沿って説明。トレーニングによる問題演習と解説。		
22～24	有形固定資産（減価償却、定率法、生産高比例法、売却）		確認テスト2回。テキストに沿って説明。トレーニングによる問題演習と解説。		
25～27	有形固定資産（割賦購入、建設仮勘定、改良・修繕、除却・廃棄）		テキストに沿って説明。トレーニングによる問題演習と解説。		
28～30	有形固定資産（買換え、臨時損失、圧縮記帳）		テキストに沿って説明。トレーニングによる問題演習と解説。		
31～33	固定資産の問題演習		確認テスト3回。テキストに沿って説明。トレーニングによる問題演習と解説。		
34～36	リース会計（ファイナンス・リース、オペレーティング・リース）		テキストに沿って説明。トレーニングによる問題演習と解説。		
37～39	無形固定資産、ソフトウェア、研究開発費、引当金（貸倒引当金）		確認テスト4回。テキストに沿って説明。トレーニングによる問題演習と解説。		
40～42	引当金（修繕引当金、退職給付引当金、その他の引当金）		テキストに沿って説明。トレーニングによる問題演習と解説。		
43～45	外貨換算会計（取引発生時、決済時、決算時、為替予約）		確認テスト5回。テキストに沿って説明。トレーニングによる問題演習と解説。		
46～48	税金（法人税等、消費税、税込方式・税抜方式）		テキストに沿って説明。トレーニングによる問題演習と解説。		
49～51	株式の発行（資本について、設立、増資、株式申込証拠金）		確認テスト6回。テキストに沿って説明。トレーニングによる問題演習と解説。		
52～54	剰余金の配当と処分（利益剰余金の配当、資本剰余金の配当、当期純損失）		テキストに沿って説明。トレーニングによる問題演習と解説。		
55～57	株主資本の計数の変動、株主資本等変動計算書		テキストに沿って説明。トレーニングによる問題演習と解説。		
58～60	精算表(1)		確認テスト7回。テキストに沿って説明。トレーニングによる問題演習と解説。		
61～63	精算表（2）		テキストに沿って説明。トレーニングによる問題演習と解説。		
64～66	勘定の締切（損益、繰越利益剰余金、繰越試算表）(1)		テキストに沿って説明。トレーニングによる問題演習と解説。		
67～69	勘定の締切（損益、繰越利益剰余金、繰越試算表）(2)		テキストに沿って説明。トレーニングによる問題演習と解説。		
70～72	損益計算書と貸借対照表(1)		テキストに沿って説明。トレーニングによる問題演習と解説。		
73～75	損益計算書と貸借対照表(2)		テキストに沿って説明。トレーニングによる問題演習と解説。		
76～78	月次損益、収益・費用の認識基準（仕入・売上の計上基準）		テキストに沿って説明。トレーニングによる問題演習と解説。		
79～81	サービス業（役務収益、役務原価）		テキストに沿って説明。トレーニングによる問題演習と解説。		
82～84	税効果会計（基本的な内容）		確認テスト8回。テキストに沿って説明。トレーニングによる問題演習と解説。		
85～87	本支店会計（本支店間取引、決算振替）		テキストに沿って説明。トレーニングによる問題演習と解説。		
88～90	本支店会計（合併財務諸表の作成）		テキストに沿って説明。トレーニングによる問題演習と解説。		
91～93	合併と営業譲渡		確認テスト9回。テキストに沿って説明。トレーニングによる問題演習と解説。		
94～96	連結（資本連結、資本と投資の相殺消去、部分所有の連結）		テキストに沿って説明。トレーニングによる問題演習と解説。		
97～99	連結（資本連結、支配権獲得後の連結1期目、連結W/S、F/S）		テキストに沿って説明。トレーニングによる問題演習と解説。		
100～102	連結（資本連結、支配権獲得後の連結2期目、連結F/S）		確認テスト10回。テキストに沿って説明。トレーニングによる問題演習と解説。		
103～105	連結（成果連結、貸倒引当金、棚卸資産、アップストリーム、ダウンストリーム）		確認テスト11回。テキストに沿って説明。トレーニングによる問題演習と解説。		
106～108	連結（成果連結を含むW/S、F/S、非償却有形固定資産に含まれる未実現利益消去）		テキストに沿って説明。トレーニングによる問題演習と解説。		
109～111	製造業会計		確認テスト12回。テキストに沿って説明。トレーニングによる問題演習と解説。		
112～114	答案練習（日商簿記2級過去問題集）、補助プリント		過去問題等をテスト形式で実施して解説。その他の問題演習を含む。		
115～117	答案練習（日商簿記2級過去問題集）、補助プリント		過去問題等をテスト形式で実施して解説。その他の問題演習を含む。		
118～120	答案練習（日商簿記2級過去問題集）、補助プリント		過去問題等をテスト形式で実施して解説。その他の問題演習を含む。		
121～123	答案練習（日商簿記2級過去問題集）、補助プリント		過去問題等をテスト形式で実施して解説。その他の問題演習を含む。		
124～126	答案練習（日商簿記2級過去問題集）、補助プリント		過去問題等をテスト形式で実施して解説。その他の問題演習を含む。		
127～129	答案練習（日商簿記2級過去問題集）、補助プリント		過去問題等をテスト形式で実施して解説。その他の問題演習を含む。		
130～132	答案練習（日商簿記2級過去問題集）、補助プリント		過去問題等をテスト形式で実施して解説。その他の問題演習を含む。		
133～135	答案練習（日商簿記2級過去問題集）、補助プリント		過去問題等をテスト形式で実施して解説。その他の問題演習を含む。		
136～138	答案練習（日商簿記2級過去問題集）、補助プリント		過去問題等をテスト形式で実施して解説。その他の問題演習を含む。		
139～141	全経簿記2級商業簿記特有の論点について		補助プリントを使用して解説		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
確認テスト25%、答案練習25%、検定結果20%、授業態度・学習意欲10%、課題提出10%、出席状況10%			計算力向上が重要なため、指定された問題は必ず解くこと。 課題とされた問題は遅滞なく確実に提出すること。		
成績評価基準は、A(90点以上)・B(70点以上)・C(50点以上)・D(49点以下)とする。					
実務経験教員の経歴			－		

工業簿記2級					
担当教員		長部 基春		実務授業の有無	
対象学科		対象学年		有	
必修・選択		必修		前・後期	
		単位数		1	
		時間数		150時間	
授業概要、目的、授業の進め方		基礎的な工業簿記（原価計算を含む）を修得し、具体的には日商簿記検定2級に合格できるレベルの工業簿記の知識と計算力を身に付けることを目的とする。 各分野についてテキストに沿って説明を行うとともに、例題やトレーニングの練習問題を利用して問題演習と解説を実施する。また、補助プリントを配付して計算能力の向上を図る。			
学習目標（到達目標）		日商簿記検定2級および全経簿記2級の取得が可能なような知識と計算力を身に付ける。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		日商簿記2級合格テキスト（TAC） 日商簿記2級合格トレーニング（TAC） 簿記能力検定試験 最新過去問題集2級（全経経理教育協会）			
時間数		授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考	
1～3		工業簿記の基礎（基礎的事項、勘定連絡）		テキストに沿って説明。トレーニングによる問題演習と解説。	
4～6		材料費（分類、購入原価、材料割費、材料の消費）		テキストに沿って説明。トレーニングによる問題演習と解説。	
7～9		材料費（予定消費半価を用いる場合、権卸減耗費）		テキストに沿って説明。トレーニングによる問題演習と解説。	
10～12		労務費（分類、労務費の支払い、労務費の消費、予定消費費率）		テキストに沿って説明。トレーニングによる問題演習と解説。	
13～15		経費（分類、消費）、費目別計算		テキストに沿って説明。トレーニングによる問題演習と解説。	
16～18		個別原価計算（製造直接費の直接、製造間接費の実際配賦）		確認テスト。テキストに沿って説明。トレーニングによる問題演習と解説。	
19～21		個別原価計算（他認別原価計算表、仕帳、作業帳）		テキストに沿って説明。トレーニングによる問題演習と解説。	
22～24		個別原価計算（製造間接費の予定配賦、製造間接費差異）		テキストに沿って説明。トレーニングによる問題演習と解説。	
25～27		個別原価計算（製造間接費の差異分析、公式法変動予算・固定予算）		テキストに沿って説明。トレーニングによる問題演習と解説。	
28～30		部門別個別原価計算（部門共通費の配賦、補助部門費の配賦・直接配賦法）		確認テスト。テキストに沿って説明。トレーニングによる問題演習と解説。	
31～33		部門別個別原価計算（補助部門費の配賦・相互配賦法、実際配賦と予定配賦）		テキストに沿って説明。トレーニングによる問題演習と解説。	
34～36		部門別個別原価計算（製造部門費の実際配賦、予定配賦）		テキストに沿って説明。トレーニングによる問題演習と解説。	
37～39		部門別個別原価計算（部門別予定配付率）		テキストに沿って説明。トレーニングによる問題演習と解説。	
40～42		部門別個別原価計算（総括配付）		テキストに沿って説明。トレーニングによる問題演習と解説。	
43～45		総合原価計算（単純総合、月初仕掛品が無い場合）		確認テスト。テキストに沿って説明。トレーニングによる問題演習と解説。	
46～48		総合原価計算（単純総合、月初仕掛品がある場合）		テキストに沿って説明。トレーニングによる問題演習と解説。	
49～51		総合原価計算（材料の投入方法（始点・終点・平均）、加工費の予定配賦）		テキストに沿って説明。トレーニングによる問題演習と解説。	
52～54		総合原価計算（正常仕損費の処理、負担関係）		テキストに沿って説明。トレーニングによる問題演習と解説。	
55～57		総合原価計算（正常仕損費の処理、評価額がある場合、減損、副産物）		テキストに沿って説明。トレーニングによる問題演習と解説。	
58～60		総合原価計算（工程別総合、半製品）		確認テスト。テキストに沿って説明。トレーニングによる問題演習と解説。	
61～63		総合原価計算（組別総合）		確認テスト。テキストに沿って説明。トレーニングによる問題演習と解説。	
64～66		総合原価計算（等級別総合）		確認テスト。テキストに沿って説明。トレーニングによる問題演習と解説。	
67～69		財務諸表（製造原価報告書）		確認テスト。テキストに沿って説明。トレーニングによる問題演習と解説。	
70～72		財務諸表（製造原価報告書、原価差異の表示）		テキストに沿って説明。トレーニングによる問題演習と解説。	
73～75		標準原価計算（原価標準の設定、標準原価の計算）		確認テスト。テキストに沿って説明。トレーニングによる問題演習と解説。	
76～78		標準原価計算（勘定記入、シングルプラン）		テキストに沿って説明。トレーニングによる問題演習と解説。	
79～81		標準原価計算（勘定記入、パーソナルプラン）		テキストに沿って説明。トレーニングによる問題演習と解説。	
82～84		標準原価計算（原価差異、直接材料費差異、直接労務費差異）		テキストに沿って説明。トレーニングによる問題演習と解説。	
85～87		標準原価計算（原価差異、製造間接費差異、差異分析まとめ）		テキストに沿って説明。トレーニングによる問題演習と解説。	
88～90		標準原価計算（財務諸表）		確認テスト。テキストに沿って説明。トレーニングによる問題演習と解説。	
91～93		標準原価計算（まとめ・総復習）		テキストに沿って説明。トレーニングによる問題演習と解説。	
94～96		直接原価計算（全部原価計算と直接原価計算のP/L）		確認テスト。テキストに沿って説明。トレーニングによる問題演習と解説。	
97～99		直接原価計算（全部原価計算と直接原価計算のP/L、2期分・3期分）		確認テスト。テキストに沿って説明。トレーニングによる問題演習と解説。	
100～102		直接原価計算（固定費調整）		確認テスト。テキストに沿って説明。トレーニングによる問題演習と解説。	
103～105		直接原価計算（短期利益計画、CVP分析）		テキストに沿って説明。トレーニングによる問題演習と解説。	
106～108		直接原価計算（CVP分析、感度分析、経営レバレッジ係数）		テキストに沿って説明。トレーニングによる問題演習と解説。	
109～111		直接原価計算（原価の固定分解）		確認テスト。テキストに沿って説明。トレーニングによる問題演習と解説。	
112～114		直接原価計算と全部原価計算		テキストに沿って説明。トレーニングによる問題演習と解説。	
115～117		直接原価計算（文章題）		テキストに沿って説明。トレーニングによる問題演習と解説。	
118～120		本社工場会計		確認テスト。テキストに沿って説明。トレーニングによる問題演習と解説。	
121～123		答案練習（日商簿記2級過去問題集）、補助プリント		過去問題等をテスト形式で実施して解説。その他の問題演習を含む。	
124～126		答案練習（日商簿記2級過去問題集）、補助プリント		過去問題等をテスト形式で実施して解説。その他の問題演習を含む。	
127～129		答案練習（日商簿記2級過去問題集）、補助プリント		過去問題等をテスト形式で実施して解説。その他の問題演習を含む。	
130～132		答案練習（日商簿記2級過去問題集）、補助プリント		過去問題等をテスト形式で実施して解説。その他の問題演習を含む。	
133～135		答案練習（日商簿記2級過去問題集）、補助プリント		過去問題等をテスト形式で実施して解説。その他の問題演習を含む。	
136～138		答案練習（日商簿記2級過去問題集）、補助プリント		過去問題等をテスト形式で実施して解説。その他の問題演習を含む。	
139～141		答案練習（日商簿記2級過去問題集）、補助プリント		過去問題等をテスト形式で実施して解説。その他の問題演習を含む。	
142～144		答案練習（日商簿記2級過去問題集）、補助プリント		過去問題等をテスト形式で実施して解説。その他の問題演習を含む。	
145～147		答案練習（日商簿記2級過去問題集）、補助プリント		過去問題等をテスト形式で実施して解説。その他の問題演習を含む。	
148～150		全経簿記2級工業簿記特有の論点について		補助プリントを使用して解説	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
確認テスト25%、答案練習25%、検定結果20%、授業態度・学習意欲10%、課題提出10%、出席状況10%				計算力向上が重要なため、指定された問題は必ず解くこと。 課題とされた問題は遅滞なく確実に提出すること。	
成績評価基準は、A(90点以上)・B(70点以上)・C(50点以上)・D(49点以下)とする。					
実務経験教員の経歴				—	

②

長岡公務員・情報ビジネス専門学校 シラバス

科目名	検定対策				
担当教員	若井 彩香		実務授業の有無	×	
対象学科	データマーケティング科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	56時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1.一般常識や社会人として必要となるビジネススキルを学ぶ。 2.コミュニケーションを取る上での心構えや対人スキルを学ぶ。 3.電卓を使った計算や早打ちに慣れる。				
学習目標 (到達目標)	1.組織図、一般常識、敬語の種類を理解する。2.コミュニケーションの取り方を理解する。3.電卓の活用法、 効率の良い計算の仕方を理解する。4.社会人常識マナー検定3級コミュニケーション検定初級、電卓検定1 級を取得する。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	全国経理教育協会 社会人常識マナー検定テキスト2・3級、全国経理教育協会 社会人常識マナー検定試 験最新過去問題集3級、コミュニケーション検定初級公式ガイドブック&問題集、電卓検定練習問題集、電 卓、その他配布資料				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	社会常識1 社会と組織		社会人としての自覚や雇用形態をテキストや配布資料をもとに学ぶ。		
2	社会常識2 仕事と成果		目標を持つことの重要性や組織についてテキストや配布資料をもとに学ぶ。		
3～4	社会常識3 一般知識、ビジネス計算		基本的なビジネス用語や計算、県庁所在地、漢字についてプリントでの書き取りを行う。		
5～6	社会常識4 職場のマナー		出勤時から退勤時までのマナーをテキストや配布資料をもとに学ぶ。		
7	社会常識5 来客応対		基本的なお客様応対についてテキストや配布資料をもとに学ぶ。その後確認プリントを実施する。		
8～9	社会常識6 電話応対		電話の取次ぎ、掛け方についてテキストや配布資料をもとに学ぶ。その後確認プリントを実施する。		
10～18	社会常識7 過去問題1～8		社会人常識マナー検定 最新過去問題集第21回～28回を時検定対策を行う。		
19	社会常識総括		これまでの授業の内容の振り返り、実務への活用法を確認する。		
20	コミュニケーション1 コミュニケーションの持つ力		コミュニケーションのポイントや言語、非言語によるコミュニケーションの手段を学ぶ。		
21	コミュニケーション2 聞く力		傾聴についてテキストをもとに学ぶ。		
22	コミュニケーション3 話す力		話の組み立て、5W2H、言葉選びについてテキストをもとに学ぶ。		
23	コミュニケーション4 基礎		挨拶や自己紹介、お辞儀のパターンについて実技を実技を通して学ぶ。		
24	コミュニケーション5 応用		接客の場を想定してのコミュニケーション、クレーム対応を実技を通して学ぶ。		
25	コミュニケーション6 模擬問題		予想問題を解き検定対策を行う。		
26～29	コミュニケーション7 過去問題①～③		過去問題第1回～第3回を解き検定対策を行う。		
30	電卓1 電卓の使い方、活用法		電卓のボタンについての説明、活用法について学ぶ。		
31～33	電卓2 乗算について①		電卓検定の乗算について学ぶ。その後、確認問題を解く。		
34	電卓2 乗算について②		乗算問題の確認。10分間計測を行う。		
35～37	電卓3 除算について①		電卓検定の除算について学ぶ。その後、確認問題を解く。		
38	電卓3 除算について②		除算問題の確認。10分間計測を行う。		
39	電卓4 見取り算について①		電卓検定の見取り算について学ぶ。その後、確認問題を解く。		
40	電卓4 見取り算について②		見取り算問題の確認。10分間計測を行う。		
41～42	電卓5 複合算について①		電卓検定の複合算について学ぶ。その後、確認問題を解く。		
43	電卓5 複合算について②		複合算問題の確認。10分間計測を行う。		
44	電卓6 伝票算について①		電卓検定の伝票算について学ぶ。その後、確認問題を解く。		
45	電卓6 伝票算について②		伝票算問題の確認。10分間計測を行う。		
46～56	電卓7 練習問題①～⑩		過去問題の第1回～第15回を10分間計測し反復練習を行い検定対策を行う。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
検定結果70%、課題15%、学習意欲15%			必要部分をテキストで確認した後、確認プリントを実施し要点の理解を深める。検定日の近いものより順に順に行う。なお、検定の直前期となった自宅学習として課題の配布を行う。		
成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(41点以上)・D(40点以下)とする。					
実務経験教員の経歴					

科目名	就職実務Ⅰ				
担当教員	若井 彩香		実務授業の有無	×	
対象学科	総合ビジネス科/データマーケティング科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	87時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1.就職活動に向けた意識付けを行う。 2.履歴書の書き方、求人票の読み方を理解する。 3.就職試験対策としての面接練習、作文練習、筆記テストを行う。				
学習目標 (到達目標)	1.職業と自身の適性を理解する。 2.履歴書を完成させる。 3.求職登録を行う。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	配布資料				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1～2	就職活動の心構え		なぜ就職するのか、企業が求める人材とは何か、就活生としての身だしなみを学ぶ。		
3～4	就職活動の心構え、流れ		企業動向とや就活に関するルールを学ぶ。		
5～7	自分自身を知る		自己PRの作り方を学ぶ。		
8～9	職業を知る		業種と職種、仕事と関連資格を学ぶ。		
10～12	志望動機		志望動機の作り方について学ぶ。		
13～14	情報収集		会社情報等の収集のポイントを学ぶ。		
15～16	企業研究		企業研究の方法を学ぶ。		
16～21	書類作成		エントリーシート、履歴書、求職票の書き方を学ぶ。		
22～23	企業訪問		アポイントメントの取り方、お礼状の書き方を学ぶ。		
24～29	就職試験のマナー		週退室について実技を通して学ぶ。		
30～36	履歴書・求職票作成		これまでの学習をふまえ履歴書、求職票を作成する。		
37～40	面接練習①		入退室の確認。		
41～45	面接練習②		受け答えの確認。		
46～50	面接練習③		入室から受け答え、退室までの一連の動作の確認。		
51～55	作文対策		就職試験対策としての作文練習を行う。		
56～57	筆記試験対策		就職試験対策としての筆記試験を行う。		
58～62	時事問題対策		時事問題対策としてクラス内で最近気になるニュースの発表会を行う。地域新聞、全国紙等を活用する。		
63～87	面接対策		これまでの学習をふまえ、個人、集団を想定した面接練習を繰り返し行い、実際の採用試験に備える。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
期末試験 70%、学習意欲30%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(41点以上)・D(40点以下)とする。			就活生としての心構えをしっかりと意識付けし、希望企業から内定を頂けるよう授業に臨む。学生の今後の人生に大きく関わるポイントでもあるので、書類作成等はより丁寧な指導を心掛ける。		
実務経験教員の経歴			—		



②

長岡公務員・情報ビジネス専門学校 シラバス

科目名	コンピューター概論Ⅰ				
担当教員	玉橋 修一		実務授業の有無	×	
対象学科	データマーケティング科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	60時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1.コンピュータのハードウェアに関する知識を習得する 2.コンピュータの基本ソフトに関する知識を習得する。 3.プログラムの作成手順に関する知識を習得する。				
学習目標 (到達目標)	1.コンピュータシステムの概要を理解する。2.ITパスポート試験合格レベルの知識を習得する。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	インフォテック・サーブ 身に付く！合格！ITパスポートIT、パスポート試験問題集、その他配布資料				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1～3	ハードウェアの概要		コンピューターの種類、入力装置、出力装置、基本構成などを理解する。		
4～10	ソフトウェアとマルチメディアの概要		プロセッサ、メモリ、補助記憶装置、記憶階層などを理解する。		
10～15			2進数や集合/理論演算、確率、統計を理解する。		
16～20	ソフトウェアとマルチメディアの概要①		OSの種類やファイルシステムを理解する。		
21～25	ソフトウェアとマルチメディアの概要②		ソフトウェアやファイル形式を理解する。		
26～30	ソフトウェアとマルチメディアの概要③		グラフィック処理やヒューマンインターフェースを理解する。		
30～35	システム構成の概要①		システムの形態などを理解する。		
36～40	システム構成の概要②		システムの稼働率などを理解する。		
41～45	データベースの概要①		データベースの設計を理解する。		
46～50	データベースの概要②		データの操作や保全機能を理解する。		
51～55	ネットワークの概要①		ネットワークの基本構成などを理解する。		
56～60	ネットワークの概要②		インターネットの仕組みや通信サービスを理解する。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
検定結果90%、平常点10%  成績評定基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(41点以上)・D(40点以下)とする。			紛らわしい専門用語が多数あるので、一つ一つ区別しながら学習する。公式を覚えるだけでなく、その意味も考える。知識・理解が不十分な場合は、補習授業を行うことがある。なお問題集についてはテキストで要点の確認ごとに実施を行い自宅学習でも用いること。		
実務経験教員の経歴					



科目名	コンピューター概論Ⅱ				
担当教員	若井 彩香		実務授業の有無	×	
対象学科	データマーケティング科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	60時間
授業概要、目的、授業の進め方	1.コンピュータのハードウェアに関する知識を習得する 2.コンピュータの基本ソフトに関する知識を習得する。 3.プログラムの作成手順に関する知識を習得する。				
学習目標 (到達目標)	1.コンピュータシステムの概要を理解する。2.ITパスポート試験合格レベルの知識を習得する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	インフォテック・サーブ 身に付く！合格！ITパスポートIT、パスポート試験問題集、その他配布資料				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1～5	マネジメントの概要①		プロジェクトマネジメント、サービスマネジメント、内部統制などを理解する。		
6～10	マネジメントの概要②		マネジメント範囲の演習問題。		
11～15	企業と法務の概要①		企業活動、経営組織、知的財産権などを理解する。		
16～20	企業と法務の概要②		企業と法務範囲の演習問題。		
21～25	経営戦略の概要①		経営戦略やマーケティング、電子商取引などについて理解する。		
26～30	経営戦略の概要②		経営戦略範囲の演習問題。		
31～35	システム戦略の概要①		情報システム戦略、業務改善、システム企画について理解する。		
36～40	システム戦略の概要②		システム戦略範囲の演習問題。		
41～60	ITパスポート試験対策		総合テストを行う。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
検定結果90%、平常点10%  成績評定基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(41点以上)・D(40点以下)とする。			紛らわしい専門用語が多数あるので、一つ一つ区別しながら学習する。公式を覚えるだけでなく、その意味も考える。知識・理解が不十分な場合は、補習授業を行うことがある。なお問題集についてはテキストで要点の確認ごとに実施を行い自宅学習でも用いること。		
実務経験教員の経歴					

科目名	ITシステム				
担当教員	若井 彩香		実務授業の有無	×	
対象学科	データマーケティング科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	38時間
授業概要、目的、授業の進め方	1.コンピュータのハードウェアに関する知識を習得する 2.コンピュータの基本ソフトに関する知識を習得する。 3.プログラムの作成手順に関する知識を習得する。				
学習目標 (到達目標)	1.コンピュータシステムの概要を理解する。2.ITパスポート試験合格レベルの知識を習得する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	インフォテック・サーブ 身に付く！合格！ITパスポートIT、パスポート試験問題集、その他配布資料				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1～3	企業と法務の概要①		企業活動、経営組織などについて理解する。		
4～5	企業と法務の概要②		業務分析について理解する。		
6～10	企業と法務の概要③		企業会計、知的財産権などについて理解する。		
11～13	経営戦略の概要①		経営戦略やマーケティングなどについて理解する。		
14～17	経営戦略の概要②		経営管理システムなどについて理解する。		
18～20	経営戦略の概要③		電子商取引や機器などについて理解する。		
21～25	システム戦略の概要①		情報システム戦略などについて理解する。		
26～31	システム戦略の概要②		業務改善などにについて理解する。		
32～38	システム戦略の概要③		ソリューションビジネス、システム企画などについて理解する。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
検定結果90%、平常点10%  成績評定基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(41点以上)・D(40点以下)とする。			紛らわしい専門用語が多数あるので、一つ一つ区別しながら学習する。公式を覚えるだけでなく、その意味も考える。知識・理解が不十分な場合は、補習授業を行うことがある。なお問題集についてはテキストで要点の確認ごとに実施を行い自宅学習でも用いること。		
実務経験教員の経歴					

②

長岡公務員・情報ビジネス専門学校 シラバス

科目名	国家試験対策Ⅰ				
担当教員	若井 彩香		実務授業の有無	×	
対象学科	データマーケティング科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	90時間
授業概要、目的、 授業の進め方	ITパスポート試験の合格に必要な知識を学ぶ。				
学習目標 (到達目標)	ITパスポート者試験レベルの知識を習得する。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	ITパスポート試験 過去問題				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1～6	第1回模擬試験＋解説		問題演習の解説。		
7～12	第2回模擬試験＋解説		問題演習の解説。		
13～18	第3回模擬試験＋解説		問題演習の解説。		
19～24	第4回模擬試験＋解説		問題演習の解説。		
25～30	第5回模擬試験＋解説		問題演習の解説。		
31～36	第6回模擬試験＋解説		問題演習の解説。		
37～42	第7回模擬試験＋解説		問題演習の解説。		
43～48	第8回模擬試験＋解説		問題演習の解説。		
49～54	第9回模擬試験＋解説		問題演習の解説。		
55～60	第10回模擬試験＋解説		問題演習の解説。		
61～66	第11回模擬試験＋解説		問題演習の解説。		
67～72	第12回模擬試験＋解説		問題演習の解説。		
73～78	第13回模擬試験＋解説		問題演習の解説。		
79～84	第14回模擬試験＋解説		問題演習の解説。		
85～90	第15回模擬試験＋解説		問題演習の解説。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
検定結果90%、平常点10%  成績評定基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(41点以上)・D(40点以下)とする。			知識・理解が不十分な場合は、補習授業を行うことがある。		
実務経験教員の経歴					

②

長岡公務員・情報ビジネス専門学校 シラバス

科目名	Illustrator実習				
担当教員	山本 拓志		実務授業の有無	○	
対象学科	情報ビジネス科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	45
授業概要、目的、 授業の進め方	・基本操作編ではIllustratorの代表的機能を簡単に一通り学び、全体を把握する。 ・応用操作編では全体の機能を把握したうえで、さらに掘り下げて学習する。 ・コンテンツ制作編では具体的な制作を通して高度な技術を学ぶ。				
学習目標 (到達目標)	Illustratorクリエイター能力認定試験(スタンダード)と同等のスキルを身につける。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	Illustratorクイックマスター				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1~2	序章 Adobe Illustratorとは		テキストに沿って説明をし、演習を行う。		
3~17	第1部 基本操作編 Chapter1~7		テキストに沿って説明をし、演習を行う。		
17~32	第2部 応用操作編 Chapter1~5		テキストに沿って説明をし、演習を行う。		
33~45	第3部 コンテンツ制作編 Chapter1~5		テキストに沿って説明をし、演習を行う。		
			</		

②

長岡公務員・情報ビジネス専門学校 シラバス

科目名	Photoshop実習				
担当教員	吉富 克弥		実務授業の有無	○	
対象学科	情報ビジネス科	対象学年	2	開講時期	前・後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	45
授業概要、目的、 授業の進め方	・基本操作編では対象アプリケーションの持つ、基本ツールまたはコマンドについて、ひとつひとつの機能を解説すると同時に演習を設定し、オンタイムで体験しながら学習を進める。 ・コンテンツ制作編では段階的に設定されたテーマに基づき、ポップ制作、ロゴデザイン、合成画像、Webページなどのコンテンツ制作を通じて、楽しみながら各種の制作技法を習得する。				
学習目標 (到達目標)	Photoshopクリエイター能力認定試験(スタンダード)と同等のスキルを身につける。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	Photoshopクイックマスター				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1~2	序章 Adobe Photoshopとは		テキストに沿って説明をし、演習を行う。		
3~24	第1部 基本操作編 Chapter1~10		テキストに沿って説明をし、演習を行う。		
25~45	第2部 コンテンツ制作編 Chapter1~5		テキストに沿って説明をし、演習を行う。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
評価方法：課題提出70% 授業態度・出席状況30%  成績評価基準：A(80点以上)・B(65点以上)・C(50点以上)・D(49点以下)			・他授業での進めていく実技と合わせ、実際に現場で応用できる知識として習得すること。 ・単なる用語の記憶だけではなく、成り立ちについて詳しく説明できる能力として習得すること。		
実務経験教員の経歴					

科目名	AI概論				
担当教員	片野史高		実務授業の有無	○	
対象学科	情報ビジネス科	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	24
授業概要、目的、授業の進め方	①授業の目的…AI（人工知能）への理解を深め、AIをシステム実装する手段と、AIを社会実装するために抑えておくべき事項を理解する。 ②授業の進め方…「講義（知識習得）」→「演習（開発体験）」→「課題（知識定着）」の3コマ1セットを基本とする。				
授業形態	遠隔授業の実施				
学習目標 （到達目標）	①人工知能（機械学習）による予測や識別のAIモデルを、Python言語を使用して記述できる。 ②サートファイが主催する「AI検定」について、検定の受験対策を自らで計画・遂行できる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	①新潟人工知能研究所 オリジナル教材（パワーポイント） ②サートファイ「AIリテラシー講座【AI検定®対応】」				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1～3	AIの開発基盤・Pythonの基礎		AIの実装を支える技術基盤について全体像を把握する。 AIプログラミングに必要なPythonの基礎を理解する。		
4～6	データの前処理・可視化・基礎分析		分析対象となるデータについて、前処理と可視化を行うとともに、基礎分析による仮説を立てる。		
8～9	機械学習の学習と予測		機械学習における、学習と予測のステップを学び、従来型のプログラミングとの違いを理解する。		
10～12	教師あり学習（回帰・分類演習）		機械学習ライブラリの使用方法を理解して、教師あり学習の手法を学ぶ。		
13～15	教師なし学習（クラスタリング・主成分分析演習）		機械学習ライブラリの使用方法を理解して、教師なし学習の手法を学ぶ。		
16～18	画像認識（ニューラルネットワーク演習）		ニューラルネットワークを用いて、画像データに映っている物体を認識・分類する手法を学ぶ。		
19～21	強化学習（Q-Learning演習）		強化学習の理論を学び、迷路探索を題材にして、その理論を実践する。		
22～24	自然言語処理（BERT・Transformer演習）		自然言語を扱うための最新手法を学び、自然言語処理の社会実装について検討する。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
演習課題75%、平常点25%			筆記試験は行いません。授業内で出題する演習課題の提出状況に、		
成績評定基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(41点以上)・D(40点以下)とする。			授業への参加状況、学習意欲を加味して評定を行います。		
実務経験教員の経歴	AI人材の育成に5年間従事。同時にデータサイエンス業務に2年間従事。				

科目名	Outlook演習				
担当教員	吉澤 裕和		実務授業の有無	有	
対象学科	情報ビジネス科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	60
授業概要、目的、授業の進め方	Outlookの活用を通して仕事における統合的な情報の管理方法を学ぶ。				
学習目標 (到達目標)	Outlookの活用方法の修得 MOS Outlook合格を目指す				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	インプレス できるOutlookパーフェクトブック困った！&便利ワザ大全2019/2016/2013/microsoft365対応				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1～4	Outlookの基本ワザ		講義、演習		
5～13	メールを送受信する		講義、演習		
14～22	メールの管理とトラブル対策		講義、演習		
23～31	連絡先とアドレス帳を管理する		講義、演習		
32～40	予定表を使う		講義、演習		
41～49	タスクを管理する		講義、演習		
50	メールや予定表の印刷方法		講義、演習		
51～60	M O S 出題範囲の復習		演習		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
評価方法：検定結果90%、平常点10%  成績評定基準：A(80点以上)・B(60点以上)・C(41点以上)・D(40点以下)			出席をしっかりと行うこと。講義をよく聞き理解し、実習に臨むこと。		
実務経験教員の経歴					



科目名	データベースプログラミング(SQL)				
担当教員	玉橋 修一		実務授業の有無	○	
対象学科	情報ビジネス科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	45
授業概要、目的、授業の進め方	SQL言語を使いデータベースの操作方法を学習し、テキストを用いてSQLのコマンドや文法などの基礎知識を深める。				
学習目標 (到達目標)	SQLの文法とコマンドを学習し、データベースを操作できるスキルを養う。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	技術評論社 SQL書き方ドリル				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1～5	学習の進め方		テキストに沿って進める		
6～15	ひとつのテーブルを扱う		テキストに沿って進める		
16～25	複数のテーブルを扱う		テキストに沿って進める		
26～35	追加・更新・削除		テキストに沿って進める		
36～45	応用問題		テキストに沿って進める		
</					

科目名	Access3級				
担当教員	玉橋 修一		実務授業の有無	○	
対象学科	情報ビジネス科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	90
授業概要、目的、授業の進め方	Accessビジネスデータベース技能認定試験 3 級の合格に必要な知識を学ぶ。				
学習目標 (到達目標)	Accessビジネスデータベース技能認定試験 3 級レベルの知識を習得する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	ウイネット Access2019クイックマスター サーティファイ Accessビジネスデータベース技能認定試験問題集				
回数			学習方法・準備学習・備考		
1～2	Accessの基本操作、データベースファイルの作成		Accessの起動、データベースオブジェクト、データベースファイルの新規作成などを学ぶ。		
3～7	テーブル		テーブルの新規作成、主キーの設定、フィールドの追加、インポートなどを学ぶ。		
8～12	クエリ		クエリの概要、選択クエリの新規作成、並べ替え、抽出、演算フィールドなどを学ぶ。		
13～17	フォーム、レポート		フォームの概要、フォームの新規作成、編集、レポートの概要、レポートの新規作成、印刷などを学ぶ。		
18～22	リレーションシップ、マクロ		リレーションシップの概要、テーブルの結合、マクロの概要、マクロの作成と実行などを学ぶ。		
23～27	アプリケーション活用		データベースの設計、テーブルの作成、入力画面の作成、リストの作成などを学ぶ。		
27～67	実技練習問題 1～7		問題演習と解説。		
68～79	模擬問題 1～3		問題演習と解説。		
80～90	検定受験対策		問題演習と解説。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
検定結果75%、平常点25% 提出物、学習意欲、授業態度などを加味する。 成績評定基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(41点以上)・D(40点以下)とする。			問題演習はホームワークとなる場合がある。		
実務経験教員の経歴					

科目名	データマーケティング				
担当教員	若井 彩香		実務授業の有無		
対象学科	情報ビジネス科	対象学年	2	開講時期	前・後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	68
授業概要、目的、 授業の進め方	マーケティングの知識を学ぶ。				
学習目標 (到達目標)	ネットビジネスの概要を理解する。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	配布資料				
時間数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1~10	マーケティング手法論		講義、演習		
11~21	ネット解析ツールの仕組み		講義、演習		
22~42	ネット広告企画演習		講義、演習		
43~68	データ分析・広告演習		講義、演習		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
評価方法：課題提出90%、平常点10%  成績評定基準：A(80点以上)・B(60点以上)・C(41点以上)・D(40点以下)			問題演習は宿題となることがある。		
実務経験教員の経歴					

科目名	就職実務Ⅱ				
担当教員	永田 章		実務授業の有無	無	
対象学科	情報ビジネス科	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	－	時間数	103
授業概要、目的、 授業の進め方	・就職活動に必要な具体的な知識や技術を学び、活動の準備を行う。 ・就職試験で実施される筆記試験や面接試験に対する指導を行い早期に定に結びつける。 ・内定を得た後は社会人として求められる知識の習得を目指す。				
学習目標 (到達目標)	適切な就職活動が行なえること。そのために必要な筆記試験、面接試験の力を身につける。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	ウイネット 勝つための就職ガイド Success 動画で学ぶ就活ナビ				
時間数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1～3	就職活動の心構え、流れ、ルールの再確認		テキストに沿って説明。		
4～6	エントリーシートの書き方、履歴書の書き方		テキストに沿って説明。		
7～16	履歴書作成		テキストに沿って説明。実際に作成。		
17～20	企業訪問、アポイントメントについて		テキストに沿って説明。		
21～24	就職試験のマナー、形式、受験後について		テキストに沿って説明。		
25～45	面接試験対策（面接応答準備、模擬面接）		テキストに沿って説明。		
46～55	筆記試験対策（SPI、一般常識など）		テキストに沿って説明。		
56～65	筆記試験対策（CAB・GABなど）		テキストに沿って説明。		
66～75	筆記試験対策（その他）		テキストに沿って説明。		
76～80	お礼状の書き方		テキストに沿って説明。		
80～90	個別面談		状況に応じて随時実施する。		
91～94	ビジネス文書の書き方		未内定者には並行して試験に向けての準備		
94～98	就職後の自分について		未内定者には並行して試験に向けての準備		
99～103	社会人として必要なマナー、知識、社会保険について		未内定者には並行して試験に向けての準備		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
評価方法：筆記試験50%、小テスト30%、授業態度・出席状況20%  成績評価基準：A（80点以上）・B（65点以上）・C（50点以上）・D（49点以下）			就職活動はもとより社会人として求められる知識を学ぶため、就職内定後であっても履修は継続する。		
実務経験教員の経歴			—		

科目名	プレゼンテーション					
担当教員	西海　智久			実務授業の有無	有	
対象学科	情報ビジネス科	対象学年	2	開講時期	前期	
必修・選択	必修	単位数	－	時間数	60	
授業概要、目的、 授業の進め方	PowerPointを使用し、プレゼンテーションを行うことができる サーティファイ主催　PowerPoint検定初級　合格					
学習目標 (到達目標)	サーティファイ主催　PowerPoint検定初級　合格					
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	ウイネット　PowerPoint2019　クイックマスター ウイネット　PowerPointプレゼンテーション技能認定試験問題集					
時間数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1～5	プレゼンテーション概論			実習　プレゼンテーションとは何か、発表に関する知識		
6～10	Power pointの基礎知識			実習　画面表示モード、画面構成に関する知識		
11～15	プレゼンテーションの作成			実習　テキスト入力　保存方法		
16～20	プレゼンテーションの作成恒星とデザイン			実習　アウトライン操作、デザイン変更		
21～25	文字の編集			実習　文字書式、段落書式		
26～30	オブジェクトの作成			実習　図形描画、表の挿入、グラフの挿入		
31～35	表示効果とハイパーリンク、スライドショーの実行			実習　アニメーション効果、ハイパーリンクの挿入		
36～40	データのカスタマイズと既存データの活用			実習　タイトルスライド作成		
41～45	SmartArtの活用			実習　SmartArtを使用したスライド作成		
46～50	グラフの追加と図の加工			実習　グラフ、図を使用したスライド作成		
51～55	問題演習			問題集を使用して、実践問題をを行う		
56～60	ブレゼン作成と発表			各自発表テーマを決め、プレゼンテーションを行う		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
<p>評価方法：検定結果40％、ブレゼン発表40％、授業態度・出席状況20％</p> <p>成績評価基準：A(80点以上)・B(65点以上)・C(50点以上)・D(49点以下)</p>				<p>授業の内容理解はもちろん、各自がテーマを決めプレゼンをする ことで、プレゼンスキルを身につけることを目的とする。</p>		
実務経験教員の経歴						

②

長岡公務員・情報ビジネス専門学校 シラバス

科目名	ホームページ				
担当教員	玉橋 修一		実務授業の有無	有	
対象学科	情報ビジネス科	対象学年	2	開講時期	前・後期
必修・選択	必修	単位数	－	時間数	64
授業概要、目的、授業の進め方	サーティファイ『WEBクリエイター能力認定試験 初級』合格を目指し、ホームページ（HTML,CSS）制作の知識・技術を習得する。テキスト、問題集を中心に授業を進める。				
学習目標 （到達目標）	サーティファイ『WEBクリエイター能力認定試験 初級』合格を目標とする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	FOM出版 WEBクリエイター能力認定試験 スタンダード公式テキスト サーティファイ WEBクリエイター能力認定試験 スタンダード問題集				
時間数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1～3	インターネット、ホームページの基礎		テキストで行う。確認テストを実施する。		
4～6	HTMLの記述方法		テキストで行う。確認テストを実施する。		
7～13	HTMLのタグの種類①		テキストで行う。確認テストを実施する。		
14～20	HTMLのタグの種類②		テキストで行う。確認テストを実施する。		
21～26	HTMLのタグの種類③		テキストで行う。確認テストを実施する。		
27～29	CSSの記述方法		テキストで行う。確認テストを実施する。		
30～36	CSSの種類①		テキストで行う。確認テストを実施する。		
37～42	CSSの種類②		テキストで行う。確認テストを実施する。		
43～48	CSSの種類③		テキストで行う。確認テストを実施する。		
49～64	模擬試験①		CBT問題と流れに慣れる。時間内に解答できるようにする。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
評価方法：検定結果50％、小テスト30％、授業態度・出席状況20％  成績評価基準：A（80点以上）・B（65点以上）・C（50点以上）・D（49点以下）			確認テストの見直しを行い、基本的なタグを覚える。問題を反復練習することで、正確に短時間で記述できるようにしておく。		
実務経験教員の経歴	WEB制作においてをHTML/CSSを用いての商用サイトの構築と運用に8年間関わっていた。				

科目名	コンピュータ会計				
担当教員	関口 美江子		実務授業の有無	有	
対象学科	情報ビジネス科	対象学年	2	開講時期	前・後期
必修・選択	必修	単位数	－	時間数	68
授業概要、目的、 授業の進め方	・実際に企業の経理現場で利用されている会計ソフトである"弥生会計"を用いて、企業の経理担当者として知っておくべき知識と、取引の流れや各種証憑から一般的によく発生する仕訳を、適切な勘定科目を使って作成できる実務知識を身につける。 ・テキストに従って会計ソフトの使用方法を学ぶが、入力作業も含めた実際の活用能力を養う事を重視する。				
学習目標 (到達目標)	・会計ソフト（弥生会計）の基本的な使用法、活用法を身につける。 ・コンピュータ会計検定3級合格を目指す。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	実教出版 コンピュータ会計 基本 テキスト 実教出版 コンピュータ会計 基本 問題集 全国経理教育協会 コンピュータ会計能力検定 過去問題集				
時間数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1～3	コンピュータ会計の特徴について。会計ソフトの操作（会計ソフトのインストール、起動、復元、バックアップ）		テキストに沿って説明と例題を用いた演習。問題集を使って更に演習と解説。		
4～6	会計ソフトの操作（会計データの入力、日常取引の入力操作、検索、印刷、集計表の作成）		テキストに沿って説明と例題を用いた演習。問題集を使って更に演習と解説。		
7～9	会計処理（現金預金、売上、仕入に関連する業務と会計処理）		テキストに沿って説明と例題を用いた演習。問題集を使って更に演習と解説。		
10～12	会計処理（経費、その他の債権・債務、給与に関連する業務と会計処理）		テキストに沿って説明と例題を用いた演習。問題集を使って更に演習と解説。		
13～15	税金に関連する基礎知識と会計処理		テキストに沿って説明と例題を用いた演習。問題集を使って更に演習と解説。		
16～18	証憑によるデータ入力（入力練習）		テキストに沿って説明と例題を用いた演習。問題集を使って更に演習と解説。		
19～21	証憑によるデータ入力（入力練習）		テキストに沿って説明と例題を用いた演習。問題集を使って更に演習と解説。		
22～24	月次決算に関連する業務と会計処理		テキストに沿って説明と例題を用いた演習。問題集を使って更に演習と解説。		
25～27	会計データの入力練習（その１）		問題集を使って入力の練習と解説。		
28～30	会計データの入力練習（その２）		問題集を使って入力の練習と解説。		
31～33	基幹業務の内容とビジネス法務について		テキストに沿って説明と例題を用いた演習。問題集を使って更に演習と解説。		
34～36	テキストの練習問題を活用した入力練習。		問題集を使って演習と解説。		
37～39	テキストの練習問題を活用した入力練習。		問題集を使って演習と解説。		
40～68	過去問題演習		過去問題等をテスト形式で実施して解説。その他の問題演習を含む。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
評価方法：検定結果50％、小テスト30％、授業態度・出席状況20％  成績評価基準：A（80点以上）・B（65点以上）・C（50点以上）・D（49点以下）			簿記の基礎知識（全経簿記3級以上）が必要。  パソコンに関しても基本的な操作(入力)ができることは必要となる。  課題とされた問題は遅滞なく確実に提出すること。		
実務経験教員の経歴					



②

長岡公務員・情報ビジネス専門学校 シラバス

科目名	所得税法				
担当教員	永田 章		実務授業の有無	無	
対象学科	情報ビジネス科	対象学年	2	開講時期	前・後期
必修・選択	必修	単位数	－	時間数	50
授業概要、目的、 授業の進め方	所得税の概要および法令の一般的内容を学び、実務に対応できる基礎的事務能力を身につける。				
学習目標 (到達目標)	・所得税の一般的事務手続きを行うことができる ・全国経理教育協会主催 所得税法能力検定試験 3級 合格				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	・英光社 所得税法テキスト ・全国経理教育協会 所得税法能力検定試験 最新過去問題集 3級				
時間数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1 ～ 3	所得税の概要		テキストの内容説明。問題演習とその解説。		
4 ～ 6	所得の内容とその計算方法 1 利子所得、2 配当所得		テキストの内容説明。問題演習とその解説。		
7 ～ 9	所得の内容とその計算方法 3 不動産所得、4 事業所得		テキストの内容説明。問題演習とその解説。		
10 ～ 12	所得の内容とその計算方法 5 給与所得、6 退職所得		テキストの内容説明。問題演習とその解説。		
13 ～ 15	所得の内容とその計算方法 7 山林所得、8 譲渡所得		テキストの内容説明。問題演習とその解説。		
16 ～ 18	所得の内容とその計算方法 9 一時所得、10 雑所得		テキストの内容説明。問題演習とその解説。		
19 ～ 21	課税標準		テキストの内容説明。問題演習とその解説。		
22 ～ 24	所得控除と課税総所得金額		テキストの内容説明。問題演習とその解説。		
25 ～ 27	所得税額の計算		テキストの内容説明。問題演習とその解説。		
28 ～ 30	所得税の申告・納付等の手続き		テキストの内容説明。問題演習とその解説。		
31 ～ 50	過去問題演習		過去問題等で演習を行い、解説する。		

②

長岡公務員・情報ビジネス専門学校 シラバス

科目名		法人税法				
担当教員		永田 章		実務授業の有無	無	
対象学科		情報ビジネス科	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択		必修	単位数	－	時間数	60
授業概要、目的、 授業の進め方		法人税の概要および法令の一般的内容を学び、実務に対応できる基礎的事務能力を身につける。				
学習目標 (到達目標)		・法人税の一般的事務手続きを行うことができる ・全国経理教育協会主催 法人税法能力検定試験 3級 合格				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料		・英光社 法人税法テキスト ・全国経理教育協会 法人税法能力検定試験 最新過去問題集 3級				
時間数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1 ～ 3	法人税の概要			テキストの内容説明。問題演習とその解説。		
4 ～ 6	所得金額の計算			テキストの内容説明。問題演習とその解説。		
7 ～ 9	益金の額の計算			テキストの内容説明。問題演習とその解説。		
10 ～ 12	損金の額の計算 1 棚卸資産の譲渡、2 有価証券の譲渡			テキストの内容説明。問題演習とその解説。		
13 ～ 15	損金の額の計算 3 減価償却資産の償却、4 繰延資産の償却			テキストの内容説明。問題演習とその解説。		
16 ～ 18	損金の額の計算 5 資産の評価損、6 役員の給与等			テキストの内容説明。問題演習とその解説。		
19 ～ 21	損金の額の計算 7 寄附金、8 交際費等			テキストの内容説明。問題演習とその解説。		
22 ～ 24	損金の額の計算 9 租税公課および罰科金、1 0 貸倒損失			テキストの内容説明。問題演習とその解説。		
25 ～ 27	損金の額の計算 1 1 圧縮記帳、1 2 引当金、1 3 欠損金の繰越控除または繰戻還付			テキストの内容説明。問題演習とその解説。		
28 ～ 30	法人税額の計算			テキストの内容説明。問題演習とその解説。		
31 ～ 33	同族会社、法人税の申告と納税			テキストの内容説明。問題演習とその解説。		
34 ～ 60	過去問題演習			過去問題等で演習を行い、解説する。		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
評価方法：検定結果 50%、小テスト 30%、授業態度・出席状況 20%  成績評価基準:A(80点以上)・B(65点以上)・C(50点以上)・D(49点以下)				出席率80%未満の場合は、追試の受験対象となりますので、授業には必ず出席し、すべての演習課題を提出してください。		
実務経験教員の経歴		－				